

# 華やぐメンズ・ファッショントレンド

冒頭特別座談会

“クール・ビズ”亡國論から“タイはロックだ”説まで、  
ファッショントレンドの「現在」を語り尽くす！

いま、ファッショントレンドはどんな状況にあって、どこへ行くのか。

そんなシンプルかつ深遠なテーマについて語るのは、  
いつもの河毛俊作、栗野宏文の両氏に加えて新登場の服飾史家・中野香織氏。  
特集ファッショントレンド・フォトに先立つ軽妙トークをお届けする。

写真=難波ケンジ

## カジュアルのマニュアル

河毛 巷間話題のクール・ビズ、ちょっと挑発的な言い方ですが、すぐやめたほうがいいっておもつてんですよ。背広着てネクタイしてるから人間として成立してる人、結構いるけど、ドレス・ダウンすると、そういう人は、かなり危険ですよ。

栗野 バリバリにノリのきいた、つまりネクタイしなきゃ到底合わないシャツでネクタイ外しただけっていうのはみっともないですね。

河毛 愛人の家に着いた途端って感じの不穏さ、気の抜けた感がある。

栗野 日本がエコ・コンシャスな国だと表明する手段としてはよかつたかなとおもっています。ネクタイをはずして空調の温度上げた、そこには部分は本気なのねというメッセージ。

河毛 でも、暑いからネクタイしなくていいのかつてところもあるんですね、そもそも戦前から少なくとも60年代まではやっていたわけだし。服装的にカジュアル・ダウンしていくこうっていう流れがあるわけですよね。それは良くないとおもつ。

中野 イギリスでは、トニー・ブレア首相など、労働党の議員がカジュアル・ダウンしていて、そのアンチテーゼとして、ロックンローラーがネクタイをしているようです。

河毛 そうそう。国会はカジュアル化しちゃいけない部分なんですよ。そこが溶けちゃうと、混沌があるだけ。権威が権威としてあるってことをみずから放棄してしまっている。

栗野 税持を保つていうのはぜんぶの中心だとおもう。ワインストン・チャーチルはチャーチルらしくしてよってことですよね。

河毛 おそらくこれから、クール・ビズっていう定型をつくるんじゃないかな。カジュアルのマニュアル、外しのマニュアルみたいな、非常に言語矛盾的な状況ですが。

栗野 かたや若者、スーツ着たことない、ネクタイ締めたことない、革靴はいたことない人、増えてますね。河毛 ファッショントレンドの訓練が致命的にできない人が大人になつて、どんどんモードに行くことを、ぼくはすごく懸念してる。むかしの、たとえば、私立の女子高に通つてる人は、使つていいのは白と紺くらいだったけれど、いまは、バリバリ・メイクして、ナンデモあり。若いうちの規律や制約の少なさが、お洒落な人をつくらないってことになつてる。極端なところだと、ぬいぐるみ着るつてところまで行つちゃう。

栗野 訓練っていうか、稽古がない。

河毛 パイレーツ・オブ・カリビアの『』のような世界ですね。

栗野 そう。いっぽう今度の春夏は、アメリカ南部がテーマで、『聖者の行進』と悲しい最期を遂げた黒人タップダンサーを歌つた『ミスター・

中野 洋服大評定のときもそうでしたが、日本人ってお上から言われないと弾みがつかないんでしょう。栗野 それは、いつのことですか。

中野 明治4年、1871年のことです。日本人らしい着物を捨てるのはいかがなものか、という異論も出たんですが。「胡服して、戎を征す」、つまり、世界に通用している洋服を身に着け、世界を制しようと当時の副島種臣・外務卿が、そして西郷どんもワシも同じ意見でこんす、と音頭を取つて採用に至つたんです。

栗野 グローバル・ヴィジョンみたいなのが、ぐつと高まつてくるのが見えておもしろいですね。

中野 そう。こんかいもエコという大義があつて、受け入れられた背景がなきにしもあらずですからね。

河毛 おそらくこれから、クール・ビズっていう定型をつくるんじゃないかな。カジュアルのマニュアル、外しのマニュアルみたいな、非常に言語矛盾的な状況ですが。

栗野 かたや若者、スーツ着たことない、ネクタイ締めたことない、革靴はいたことない人、増えてますね。河毛 ファッショントレンドの訓練が致命的にできない人が大人になつて、どんどんモードに行くことを、ぼくはすごく懸念してる。むかしの、たとえば、私立の女子高に通つてる人は、使つていいのは白と紺くらいだったけれど、いまは、バリバリ・メイクして、ナンデモあり。若いうちの規律や制約の少なさが、お洒落な人をつくらないってことになつてる。極端なところだと、ぬいぐるみ着るつてところまで行つちゃう。

栗野 訓練っていうか、稽古がない。

河毛 ところどころで栗野さん、この秋冬の傾向、どんな風に見てますか。

栗野 やれクロコダイルだ、やれフアーダっていうゼイタクなのが出尽くす。華の極致なのがこの秋冬です。

中野 ルイ・ヴィトンは、ゼイタク素材をこれでもかつていうくらいラグナップしてましたね。ヌレエフをテーマにしているとか。

河毛 ルドルフ・ヌレエフ。冷戦下、イギリスに亡命した旧ソ連のバレエ・ダンサーですね。

栗野 ロシアの経済はいまバブルで、ファッショントレンドは黎明期。ロシアがテマならウケ良さそう、というところが少なからずあるんでしょうね。

河毛 とすると、再来年は中国か。

栗野 ちょっとドライな言い方ですが、いずれにせよ、いつたんデコラティブなところへ向かう。ちなみに次の春夏はね、もっとヒューマンなどころへたどり着くんじゃないかと見てます。たとえば、ジョン・ガリアーノ。秋冬はナポレオン的な、戦争におけるヒロイズムをフィーチャーしていく、制服のカッコよさと、そこから逸脱していくボヘミアンのカッコよさを並立させていく。

# 河毛俊作



フジテレビ・ゼネラルディレクター

初監督作品『星になった少年』が公開中。夭折した象つかいの青年をテーマにした物語、ファンタジーとリアリティの融合がテーマだという。



ユナイテッドアローズ・チーフクリエイティブオフィサー

丸の内にオープンした30~40代がターゲットの『ダージリン・デイズ』が好調。ニューヨークで、写真家で映画監督のブルース・ウェーバーのインタビューを行なうなど、旺盛な文化的活動も怠らない。

# 栗野宏文



服飾史家

著書に、『スーツの神話』(文春新書)、『モードの方程式』(新潮社)、訳書に、エイザ・ブリッグズ『シャネルスタイルと人生』(文化出版局)、アン・ホランダー『性とスーツ』(白水社)がある。

# 中野香織

ボーランド』をライブで演奏しながら、スピリチュアルに訴える。  
中野 プラダはどうですか。ファイナンシャル・タイムズによれば、エソテリック・シンプリシティ(深遠な単純さ)だと。秘儀的で、わかる人にしかわからない、というニュアンスでしょうか。

栗野 プラダは先駆者で、『秘すれば花』のような方向へ一段と向かっている。すごくいいカシミヤを使つてはいるけど、わざと袖をシワにしたりとか、極めて諧謔的なんですね。河毛 ミウツチャ・プラダ、彼女がこのブランドにずっといることが強いね。ほかのブランドはデザイナーがいなくなったり交代したりしてるのは、ぼくはピカソの描いた絵が欲しいのであって、ピカソ・チームの絵が欲しいわけじゃないから。

## お洒落になつた後

栗野 着飾つて華があるというのは、オトコはこうあれ、みたいな文脈から外れていくようにおもうんですよ。

河毛 積極的にバカを掴み取るっていうことかな。

栗野 まあ、そうですね。

河毛 華のある男といわれた、たとえばボー・ブランメルってストイックですよね。日本だと千利休をおもわせる。朝顔をひとつだけ残してあとはぜんぶちよんぎる感じ。

中野 ともにアンチ・ゴージャスの姿勢です。ボー・ブランメルが生きた19世紀初頭はゴージャス真っ盛り、今まで言うブリン・ブリン(見せびらかしファッショニ)。歴史上、ダンディと言われてきた人は抵抗の姿勢をじませてきたということから見れば、抵抗がオトコの華にとつてキ

花のような方向へ一段と向かつてはいるけど、わざと袖をシワにしたりとか、極めて諧謔的なんですね。河毛 ミウツチャ・プラダ、彼女がこのブランドにずっといることが強いね。ほかのブランドはデザイナーがいなくなったり交代したりしてるのは、ぼくはピカソの描いた絵が欲しいのであって、ピカソ・チームの絵が欲しいわけじゃないから。

## お洒落になつた後

栗野 着飾つて華があるというのは、オトコはこうあれ、みたいな文脈から外れていくようにおもうんですよ。

河毛 積極的にバカを掴み取るっていうことかな。

栗野 まあ、そうですね。

河毛 華のある男といわれた、たとえばボー・ブランメルってストイックですよね。日本だと千利休をおもわせる。朝顔をひとつだけ残してあとはぜんぶちよんぎる感じ。

中野 ともにアンチ・ゴージャスの姿勢です。ボー・ブランメルが生きた19世紀初頭はゴージャス真っ盛り、今まで言うブリン・ブリン(見せびらかしファッショニ)。歴史上、ダンディと言われてきた人は抵抗の姿勢をじませてきたということから見れば、抵抗がオトコの華にとつてキ

ボージャングル』をライブで演奏しながら、スピリチュアルに訴える。中野 プラダはどうですか。ファイナンシャル・タイムズによれば、エソテリック・シンプリシティ(深遠な単純さ)だと。秘儀的で、わかる人にしかわからない、というニュアンスでしょうか。

栗野 ボードレールの行動しないスタイルが抵抗だったんです。みんな役に立つ人間であらねば、という時代でしたからね。ボードレール的な退廃＝カッコいいという流行後、1910年代のイギリスの小説家であるマックス・ビアボウムのように家庭を大事にして平凡な幸運を追求しようという人たちが出てきました。アブサンに溺れる退廃に対するこれもアンチテーゼとして、カフェで健全にコーヒーを飲んでるのがカッコいいという時代がしばらくありましたけど、大して続きませんでしたね。

河毛 そりやそうですよね。中野 あと歴史的に見て、スカーフやネクタイは、抵抗の意思表示のため装われたりしますね。フランス革命で共和制を支持した人たちとか。河毛 ホンネで言えばね、華のあるオトコって、背景に血の臭いがしないとダメだとおもう。筋骨隆々の力ラダには100箇所くらい傷があつて、片目がなかつたり、小指をもがれていたり、戦場で声を荒らげた結果、声がかれていたりする。100人單位で人を殺しているし、それがいまならスポーツになるんだろうけど。

栗野 スポーツって擬似殺人ですよね。栗野 カッコよくなつたら何かいいことあるのかなつてことですね? 河毛 みんな何かであらなければいけないとか、同じブランドを欲しがるとか、バブル期の女子大生みたいな流れが男性ファッションの世界へ入ってきて、男性の女性化というか、だいたい男の雑誌で着まわし1週間なんて特集はありえないですよ。華があるっていうのはスタイルがあるってこと。スタイルとは探さないってこと。社会の動向に移ろわずに、じぶんじしんを持つていてることだからどこにも行かないんですよ。

栗野 日本のサーファー人口って1